1年生「KoA-S」連携授業報告（A講座）

日　時：平成３０年９月１４日（金）１１：３０～１２：２０

場　所：高志高校　学習室AB

講　師：池下譲治先生（福井県立大学地域経済研究所アジア経済部門教授）

テーマ：「国際ビジネスで日本経済を元気にしよう！」

対　象：本校生徒４０名（１年生SGH生徒４０名）

内　容：国際ビジネスの基本の「基」を知る

（１）なぜ海外展開が必要か

①データの紹介

　　　　99.7%・・・日本の原油輸入依存度

　　　 　 7%・・・日本の大豆自給率

　　　　　39%・・・日本の食料自給率　←主要国で最低レベル

②国際ビジネスの基本の「基」は「貿易」と「投資」

・「貿易」とは・・・外国とモノ（商品）の売買取引をすること。外国に商品等を売ることを「輸出」、

外国から買うことを「輸入」という。

・「投資」とは・・・会社の取得を目的に資本を投下すること。「グリーンフィールド投資」と「M&A(Merger

　and Acquisition)」の２種類がある。

　　グリーンフィールド投資：設備や従業員の確保など全てを一から行う投資の方法。文字通り、何もな

い野原に一から建物を作り上げていくような投資。かなりのコストがかかる。

　　M&A：企業の合併や買収。業務をパートナーの企業が行ってくれるため、事業の多角化が可能になる。

また物事がスピーディーに進む。

・日本は第２次世界大戦の敗戦後、驚異的な経済発展を遂げ、1968年には西ドイツ（当時）を抜いて世界第２位の経済大国に（現在は世界第３位）。

・工業原料やエネルギー資源を外国から買って（輸入）、優れた技術で工業製品を作って外国に販売（輸出）し、外貨を獲得して成長。

・経済成長を支えてきたのは、世界との貿易。

③日本は貿易立国か→日本は実は「内需依存型」

　・一般的には日本は貿易立国とされるが、本当にそうだろうか

　　－日本の貿易依存度（GDPに対する貿易の割合）は30%以下（韓国はほぼ100%）。

　　－日本の輸出依存度は15%程度に過ぎない。

　　－主要国のうちで日本より輸出依存度が低い国はアメリカとブラジルくらい。

　　－日本は国内市場が大きいため、中小企業はこれまで海外との取引については関心が低かった。このため、商品開発は国内消費者向けになされるとともに、政府は保護主義的措置を講じて海外製品を排除してきた歴史がある。

　　－コストコが日本への出店を計画した際、一度断念した。理由は関係書類を日本語で提出しなければならず、それだけで億単位のコストがかかるため。

　　　→「内需依存型」であった結果、「ガラパゴス化※」したのが現在の日本。

※日本の中だけで市場が進化し、海外では使用できないものを作るようになること。

　　④まとめ「なぜ今、国際ビジネスが必要か」

　　　　１．内的要因　世の中が変わってきているから

　　　　　・少子高齢化（市場の変化※、労働力の減少、内需縮小）

　　　　　・コスト高（人件費、高い法人税率、電力料金高　等）

　　　　　・環境規制

　　　　　※例）習字の筆：授業で習字をしない学校が増え、広島の工芸品である「熊野筆」が売れなくなった。（しかし対策としてシャネルと提携し、化粧で使用する筆を作り、市場を世界へと広げた。）

　　　　２．外的要因

　　　　　・円高

　　　　　・海外市場の発展・拡大（日本をとりまくFTA、EPA）

　　　　　・日本製品に対するニーズの拡大（例：日本の桃など農産物は評価が高く、値段が高くても売れるため、富裕層向けの市場が大きい）

　　　　３．グローバリゼーションの拡大・深化

　　　　　・財、サービス、資本障壁の引き下げ

　　　　　・通信技術、情報技術、輸送技術の変化

　　　　　・生産活動の最適立地への分散と海外市場への直接進出が可能に

（２）輸出できる企業とはどんな企業か

　　①新新貿易理論

　　　　－同じ産業でも輸出をしている企業としていない企業がある。その差は生産性の高さ。生産性の高い企業しか輸出できない。